

圏域の中長期的な将来像

1 圏域の将来像

本圏域は、陸奥湾に面し、八甲田連峰や中山山脈の山々に囲まれた豊かな自然や美しい景観で名高い龍飛崎や夏泊半島など風光明媚な地域であり、りんごやトマト、ホタテといった全国的な知名度を誇る農水産物の宝庫です。

また、北海道・北東北の各地に点在する縄文遺跡の 17 箇所中 3 箇所（大平山元遺跡・三内丸山遺跡・小牧野遺跡）が圏域に集中する縄文遺跡の宝庫であるとともに、世界に誇る「ねぶた祭」や江戸時代発祥の神事と伝えられる「荒馬踊り」などの伝統文化など、豊かな地域資源を有しています。

また、古くから海運のネットワークにより地域経済が発展してきた歴史があり、現在においても北海道など圏域外への 3 つの航路や、東北自動車道や青森道といった高規格道路網、東北新幹線などの広域交通・物流網、4 つの国内定期路線と 3 つの国外定期路線による航空網を有する交通の要所となっています。

これらを背景に国内外からの交流人口が年々増加しており、さらには、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催や 2025 年に本県で開催される国民スポーツ大会により、スポーツを通じた国内外の交流の拡大も期待されます。

本圏域は、明治 11 年（1878 年）に郡区町村編制法に基づいて設置された「東津軽郡」の区域とほぼ同一であり、道路・鉄道といった交通網の発展等に伴い、圏域内の住民生活や経済活動など、様々な面において結びつきが強まってきました。

一方、本圏域では、人口減少とともに一層の高齢化の進展に伴い、圏域内での生産・消費などの経済活動の衰退や、過疎化が進行する地域での福祉・教育など行政サービスの維持が困難となる恐れがあるなどの課題を有しています。

本圏域では、これまで農業振興、観光振興などにおいて必要に応じて、各市町村で連携して取組を行ってきましたが、このような課題を認識した上で、歴史的な背景や圏域内の結びつき、従来からの取組の経緯などを踏まえ、圏域が有する地域資源を活かしながら、圏域の住民はもちろんのこと、圏域外の住民にとっても魅力ある、将来にわたって持続可能な発展する圏域を目指していきます。

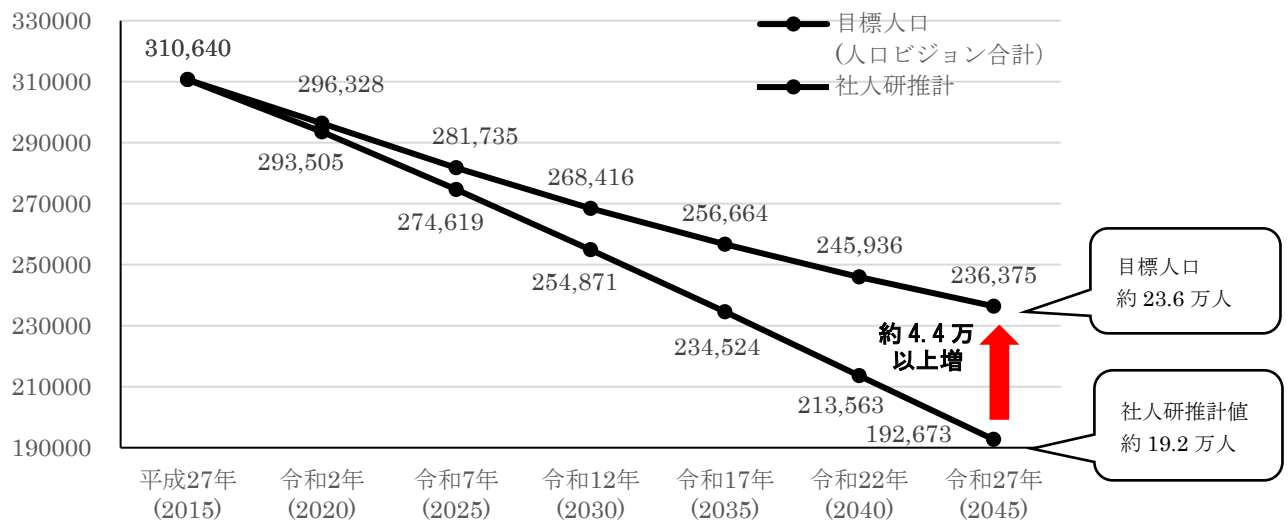
うみ・まち・ひとを絆で結ぶ青森圏域

2 人口の将来展望

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の将来推計人口によれば、現状のまま人口減少が続く場合、圏域の人口は平成 27 年（2015 年）の 310,640 人から令和 27 年（2045 年）には約 11 万人減少すると推計されます。

こうした中、各市町村の総合計画及び総合戦略のもと、本ビジョンに掲げる概ね 25 年後の令和 27 年（2045 年）における本圏域が目指す将来像も相互に共有し各市町村が連携や補完を図りながら取組を進め、圏域内の全ての地域に安心して住み続けられる、住んでみたいと思える価値ある圏域づくりを実現していきます。

圏域における将来人口の推移



(単位：人)

年	平成 27 年 (2015)	令和 2 年 (2020)	令和 7 年 (2025)	令和 12 年 (2030)	令和 17 年 (2035)	令和 22 年 (2040)	令和 27 年 (2045)
目標人口	310,640	296,328	281,735	268,416	256,664	245,936	236,375
社人研推計	310,640	293,505	274,619	254,871	234,524	213,563	192,673
青森市	287,648	274,477	261,680	249,949	239,617	230,191	221,858
平内町	11,142	10,531	9,756	9,044	8,407	7,808	7,223
今別町	2,756	2,469	2,158	1,898	1,677	1,488	1,319
外ヶ浜町	6,198	6,006	5,484	5,033	4,630	4,270	3,943
蓬田村	2,896	2,845	2,657	2,492	2,333	2,179	2,032

出典：【目標人口】青森市総合戦略（平成 27 年 10 月）、平内町人口ビジョン（平成 27 年 10 月）、今別町人口ビジョン（平成 27 年 11 月）、外ヶ浜町総合計画（平成 27 年 12 月）、蓬田村人口ビジョン・総合戦略（平成 28 年 3 月）

※平成 27 年（2015 年）については、平成 27 年国勢調査に基づく人口を記載

【社人研推計】日本の地域別将来推計人口（平成 30 年国立社会保障・人口問題研究所）